

平成 24 年 2 月 11 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

**中斎塾 東京フォーラム
平成 24 年 第二回講話**

代表幹事が道德教室の先生になって公開講座をしている資料を見させて戴きました。素読をしている子供達の姿が大きく写真に出ていて微笑ましく思いました。全国的に子供達に論語を教えようという動きが段々と広がっています。特にその中で私達に関係するものでは「有難うと言ひ、有難うと言われたか」というのがキーワードで広がっていくのを感じます。「有難う」は良い言葉なので、大いに多用しましょう。

では、早速お聞きします。今月に入ってから、嘘をついた人？

嘘の解釈をひとつしておきます。心になにかチクッと刺さるような嘘はあまりしない方が良い。相手の為になる嘘ならば、よいでしょう。

有難うと言ひ、有難うと言われたか？

自分で意識的にチャンスをみて言うといいでしょう。昨日、コーヒーを持って来た店員さんに有難うと言ったら、その 20 代前半ぐらいの女性店員さんはニコツとして会釈をしたから、呼び止めて少し話をしました。有難うと言われて気持ちはどうですかと聞くと、「有難うと言われるのは気分良いです。誰でもそうですが、逆にクレームを付けられると不愉快になります。また、一言声を掛けてくれると良い気分で仕事ができます」という事を話していました。なるほど、何か感想を添えると良いのかなとも思いました。感想を入れなければ、意識的に「有難う」と言う。有難うと言っても、そっぽを向く人もたまにはいます。その様な人は可哀そうな人だと思います。「有難う」と言うのは自分にとっても良いし、その相手にも良いものだと感じます。

今朝起きた時に今日は良い一日だ。または、今日は良い一日だと決まっていると思って目覚めた人？

子供が遠足の時にワクワクして眼を覚ます。今日は楽しいなと思って眼を覚ますと今日一日良い一日。まずひっくり返る事はないでしょう。

今、健康法を実践して、その健康法に自信がある人？

私は朝起きてスクワットをするのですが、この間テレビを見ていたらプロレスラーの高田延彦がスクワットを説明していました。スクワットをする時に自分の足のつま先から膝が出ない様に、太ももに効いているのを実感しながらお尻だけを落とすのです。私のスク

ワットは高田延彦のスクワットには遥かに及ばない。それに近づくようにスクワットの仕方を変えました。健康法も専門家に聞くのも良いし、テレビでこれは良いなと思うのも良い。素直に取り入れる癖をつけると良いです。皆それぞれ自分なりに自分にあったものをするのが良いでしょう。健康法が一番取り入れやすいと思います。

今年一年間でどうしてもやりたい、やりたくてたまらないと思っているものがある人？

それが出来たら良いね、または人生の中で出来たら良いという目標の作り方は悪くはない。ただ、一年、半年という期限があるものは体中からエネルギーが湧き起こってくる。出来た時の昂揚感が目の前にぶら下がっているという感じなので、どうしてもやりたくてたまらないというのが目の前にある。軽く思っていると、どんどん先延ばしになりますので、どうしてもやりたいと思うものがあれば、それを常に思う。その思う源泉はどうしても強く思うことです。そうすれば周りも応援してくれるでしょう。

ちなみに前の私は、本を書こうと思ったらすぐ書けた。しかし、この頃は書き始めるまでに1~2カ月もかかる。書くための材料を揃えたり、気持ちを追い込むが、どういう訳か部屋の整理を始めたりしています。この間の年賀状に、「いつ河井継之助の本は出すのですか」と催促をされてしまった。これは今年やらないといけなさと感じました。

人様に約束をすると自分の心の中でやらなければいけないと云う気持ちが高まってくるが、歳をとると段々高まり具合のボルテージが高まらない。さあやろうという気持ちが若い時には一気に伸びるものが、年配になると落ち着いて来る。意識してボルテージを上げる手段を自分なりに開発していきたいと思います。

『澁澤論語をよむ』

澁澤栄一さんの論語講義を手本として、私なりの論語講話を書きたいと今強く思っています。論語講義は明德出版で分厚い本が出ています。論語に関する本は解釈解説、学問的な説明は沢山あるけれども、現代の社会に置き換えて実例を出して説明している本は澁澤論語以外見た事ありません。

澁澤論語を解釈したものが新書で出ていまして、それを読んでみましたが、訴え掛けてこなかった。何でもっと現実に即して言わないのかが不思議。例えば、澁澤栄一の日常生活をリアルに描けば良いのに、ぼかして学問的な解釈ばかりになって訳が分からなくなってしまうと云う風に思いました。私は、論語講話を書くにあたっては、目で見るような、体験をするような感じの、そういう本にしたいなと思います。

論語 子罕第九

【二十三】子曰く、法語の言は、能く従うこと無からんや。之を改むるを責しと為す。巽与の言は、能く説ぶこと無からんや。之を繹ぬるを責しと為す。説んで繹ねず、従いて改めずんば、吾之を如何ともする末きのみ。

法語の言は諺です。よい諺、よい格言を聞いて自分の間違いを直し、実行していくのは皆従うであろう。諺によって自分の間違いを直し、良くしていこうというのは良い事だが、本当に出来るかどうかが問題です。本当に出来たのならそれは素晴らしく尊いです。

巽与の言は、相手に忠告をする時に、相手を傷つけないよう包みこんで、遠回しにする様な忠告。やわらかく気持ち良く聞けるものだから、誰でも喜んで聞くであろう。巽与の言の真意は、良い話を聞いて喜んだだけでは駄目です。それを実行してゆくにはどうしたらよいか、本当の気持ちは何かを追及していかないと役には立たない。良い話を聞いて改めようとしなない人は、私もどうする事は出来ないと孔子が言っているとお考え頂きたい。

自分に置き換えて、良い話を聞き良い行動を見て活かそうと思わなければ、ちっとも世の中の役には立たない。これは国会の論戦をみていたら感じるように、野田総理は知識を持っているのに何故それを実行しないのかと思いました。我々も知識を持っていたら、実行をする。実行に主眼を置いて、生きていくのが良いとお考え下さい。

【二十四】子曰く、忠信を主とし、己に如かざる者を友とすること毋かれ。過ちては則ち改むるに憚ること勿かれ。

忠は律義で、信は約束を守る人。自分に及ばない人間は友人にはしてはいけない。

渋沢栄一さんの書物を見直ししていると、大隈重信がこの文章を読んで、「孔子は無理な事を言う。私から友人を全部奪う気が、何故なら私の友人は私より優れてはいない。そのような連中を皆切り捨てろと無理な事を言う」とありましたが、あまり読み込んでいないのか、または氣楽に冗談を言ったのかという風に感じます。何故なら孔子は相手を見ながら話をするので、これとはまた違う反対の事を言っています。

【二十五】子曰く、三軍も帥を奪うべし。匹夫も志を奪うべからず。

一軍は 12500 人、三軍はその三倍で大軍だとお考え下さい。大將が持つ指揮権を奪う事は誰でも出来る。ただし、一般の人達の志を奪う事は出来ない。

この章句の説明を、渋沢栄一さんは面白い言い方をしていました。大正 12 年 9 月 1 日午前 11 時 58 分に関東大震災が起き、200 万人もの東京市民が大変な目に遭った。その一年

後の東京市には皆バラックを建て空き地が無くなってきた。一般の人が家を建てたいという気持ちが次々にバラックを建ててゆく。一般の人達の志、家を建てたいという気持ちは誰も奪う事は出来ないという事で、東京市民、日本人は大したものだと渋沢栄一さんは言っていました。翻って、今回の民主党政権のやっている事、来月で東日本大震災から一年ですが、家を建てたいと思っても国の方針が出ないから家を建てられない被災地の人は沢山おられる。以前、奥尻島に行った時には、国の対応が遅く、家を結局また同じ場所に建てている人がいました。早く家を建てないと自分が死んでしまうので、待っていたら間に合わないので自分でやる。本当に国の対応が遅いなと読めば読むほど思います。

【二十六】子曰く、^{やぶ}敝れたる^{あんぼう}縹袍を衣、^{こかく}狐貉を衣たる^{もの}者と^た立ちて^は恥じざる^{もの}者は、^そ其れ^ゆ由なるか。^{そこな}伎^{もと}わらず、^な求めず、^{なに}何を用て^{もつ}臧からざらんと。子路 ^{しる}終身 ^{しゅうしん}之を ^{これ}誦す。子曰く、^し是の^い道や、^{なん}何ぞ^{もつ}以て^よ臧しとするに^た足らんと。

ポロポロの綿入れ、どてらです。狐貉というのは狐、むじな、そういうもので作った立派な毛皮です。ポロポロのどてらを着て、立派な毛皮を着た人と並んで立って、どてらを恥じない人間は由（子路）ぐらいかねと孔子は言った。ねたまず、せがまず、何事も善を尽くすのは良いことである。子路は一生涯、孔子の言った事は守ろうと努力をしていた。孔子が言うには、人間の道と言うのは、素晴らしいものだ。どうして、これを求めようとしないのか。

【二十七】子曰く、^{としさむ}歳寒くして、^{しか}然る^{のち}後に^{しゅうはく}松柏の^{しほ}彫むに^{あく}後るるを知る。

寒気の厳しい時に緑の葉は落ちて来る。最後まで耐え生き残って最後に枯れるのは、松と柏（ひのき）だけ。人間も同じで、厳しい時に早々とギブアップをする人と、最後の最後まで耐え忍ぶ人との差。最後まで耐える人間を人物だと言う風に読みます。

【二十八】子曰く、^{ちしや}知者は^{まど}惑わず。^{じんしや}仁者は^{うれ}憂えず。^{ゆうしや}勇者は^{おそ}懼れず。

知恵のある人は迷わない、徳の高い人は心配しない、勇者はこわがらない。

渋沢栄一さんは、その三徳を備えた人は明治天皇しかおられないという言い方をしていました。岩倉、大久保、伊藤、大隈、山県、みんな一つの徳はあるけれども、三徳揃った人はいない。ちなみに渋沢栄一さんが自分の事を言う時には、「論語を判断基準にしているから私の人生はよかった、ただし下半身について聞かれた時には、私は下半身については

答える資格を持ち合わせておりません、御免なさい」と言っており、素直な人だなと思いました。

【二十九】子曰く、与に共に学ぶべし、未だ与に道に適くべからず。与に道に適くべし、未だ与に立つべからず。与に立つべし、未だ与に權るべからず。

一緒に学ぶ事はできるが、一緒に同じ道は歩くことが出来ない。人それぞれ違う道になるだろう。同じ道に行けたとしても、同じポストに立つ事は出来ない。ただ、全部同じ様になっても最後に得られる利益・素晴らしい宝物、これは人それぞれ違います。一緒に学ぶ事は出来るが、最後の到達点は変わるとお考え下さい。

【三十】唐棣の華、偏として其れ反せり。豈爾を思わざらんや。室是れ遠しと。子曰く、未だ之を思わざるなり。夫れ何の遠きことか之れ有らんと。

これは恋歌で、唐棣の華は、すももです。遠距離恋愛で顔を思い出さないのは、相手の事を本気で思っていないから。文通も毎日書いていけば切に思っているとなるが、たまにしか出さなければ、まだまだ本気ではない。思えば得られるのに、本気になって思っていないから中々手に入らないのだよと云う風に解釈をして、これは人間の得る道と恋をする気持ちは同じだという詩です。詩の解釈をする時に恋歌で、人間の道を説明しています。

変化の芽が芽吹いてきたか...

北方領土全国大会に招待されたので出掛けて来ました。今回は二つほど印象深いものがありました。

今迄は、遅刻して自分の話が終わったら早々と席を立っていたのが歴代の総理大臣でしたが、野田総理は始めから終わりまで出席していました。今回は時間が取れたから居るというのではなく、居るべきと思っているから居るのだと感じました。今迄とは、ちょっと違うなと思いました。本気で動いて部分もあるなと実感しました。そこから見えてくるのは、まだまだ隠し玉はあるという感じです。

内閣総理大臣の警護の人達は鞆を持っていました。今回の鞆はさらに薄くなって小脇に抱え、動き方もスムーズに動けるようになっていました。私は中曽根さんが総理大臣の時から見ていたのですが、比べるとその頃は殺されても仕方がないという警護でした。明らかに変わったのは細川さんの時に警護の仕方が変わりました。しかし民主党になってから一気に緩み、警察の緩み具合も出ていましたが、今回の緊張の度合いは高かったです。意

識して見ていたのですが、壇上に立っている警護の人は不動の姿勢で長時間立っていました。そういうものを見ますと、今の総理大臣はドジョウなんてものではなく大狸だと感じました。警備の仕方を見ても、警察にかなり強い指示が出ていると実感しました。

もう一つは、鈴木宗雄議員が新党代表として演説していたのですが、政治家らしい演説をしていました。他の人の演説は官僚的な言葉を使い、訴えるものは何にもなく心に響きませんでした。鈴木宗雄議員だけは原稿を持たずに喋り出し、思いのたけを話し出しました。面白かったのは、事務局にお願いと言って政党で10人未満のところには喋らせないと打合せをしたけれども、小なりとはいえ新党代表として皆来ているから10人という枠はとっぱらって下さい...言い方を変えると、くだらない人がいくら話をしていても時間の無駄、私みたいに中身のある話が出る者に喋らせろというのが、ありありと態度に出ていました。政治家が政治家らしい言葉を使って喋ったら、牢屋に入れられても支援するものは支援するのだなと思いました。いくら奥さんが有名人でも駄目なものは駄目だとも感じました。世の中が少し変わり出してきた兆しを、北方領土全国大会で感じました。

この間、中斎塾顧問が主宰する会の会合に行ってきた。その会合では、金儲けではない動き、幸せだと感じる気持ちをお金では換えられないという動きをする人が、だいぶ増えて来ていました。特に顧問の周りに集まってきた人達は、お金ではないという人達が増えてきています。お金儲けが唯一絶対の尺度ではなく、幸せを尺度にするという考え方に変わってきています。

世間の判断基準、価値観の評価が、お金によって違うものが生まれつつあると実感します。そのような目で世の中の動き、新聞、テレビ、ネットを見て戴きたいとお願いを致します。今年はお金ではないという動きが幾つも出てくると思います。それに気が付いたら、どのような動きか私にも教えて下さい。

日本の中にお金だけではない動きが、知足という考え方をリンクできるものだと思いますし、世の中を良い方向に進ませる。

今日の朝日新聞で復興庁発足、それに伴っての重要課題は、住宅再建、ガレキの処理、雇用確保、孤立防止、心のケア、原発事故避難者の帰還支援と書いてありました。これらを本気でやるのであれば、世の中が変わってくる。口先だけではないという実感を野田総理に見ましたので、ちょっと変わるかも知れないという気がします。

安岡干支学で言うと、今年は色々期待をさせるけど最後は消えるというのが悲しい部分ですが、でもオヤッと芽があちこちに出てきています。

今回は世の中ちょっと変わってきつつあるという兆し、その兆しはこれだという話が出るかなと思っています。